

【新春対談】

未来の私へ想いをつなぐ ～市制50周年～

市制施行50周年記念事業実施内容検討会×
富士見市長 星野光弘

(写真左から)高塚優妃さん、福田健浩さん、星野市長、
長谷川瑠璃さん、松岡千樺さん



市制施行50周年を迎える4月10日が近づいてきました。今回の新春対談は、50周年の記念事業を検討する「市制施行50周年記念事業実施内容検討会」を代表して4人の若者をお招きし、自らを育んだ富士見市への想いや人と人とのつながりの大切さ、まちや自分の将来像などについてお話しいただきました。

秘書広報課 ☎049-256-9535

「気付き」を促した

真剣な議論

市長 新年あけましておめでとうございませう。旧年中、皆さんには市制施行50周年記念事業実施内容検討会（以下、検討会）にご参加くださり誠にありがとうございました。市にはさまざまな世代の方がお住まいにも関わらず、若い世代の方と議論を重ねる機会が少ないと感じ、市制施行50周年記念事業は、若い世代の方にも関わっていただきたいとの思いから、皆さんに記念事業を検討していただきました。それぞれの立場や目線でアイデアを出し、まとめていくのは大変だと思いますが、その分

さまざまな方が楽しめる事業ができると思っています。参加してみたいかがでしたか。

長谷川 参加する前は、どんな人が来るのだろうと不安でしたが、実際にお会いすると皆さんとても話しやすく、楽しかったです。自分の意見やほかのメンバーのアイデアを積み重ねて1つの形にする経験はとても勉強になりました。

松岡 メンバーは若い世代と聞いていたので、近い意見や発想をお持ちだと思っていましたが、皆さんいろいろな意見を持ち、発想力も豊富で、例えば「富士見」と「不死身」をかけた言葉遊びから内容を膨らませていくなど、とても個性的なアイデアもありました。

福田 自分にはない考え方に触られたことで刺激を受け、また新たな自分を発見できたように思います。それ以上に、メンバー全員が記念事業についての意見を出し合い、真剣に議論をするようすが非常に印象的でした。今回のメンバーは「自分たちでより良いものをつくるんだ」という想いが一致していましたね。

高塚 検討会で議論を深めていくうちに、富士見市には目に見えない魅力がたくさんあることに改めて気付



【市制施行50周年記念事業実施内容検討会】

市制施行50周年を迎えるにあたり、市内在住、在勤の若い世代の方々に記念事業を検討してもらうために市が立ち上げた検討会。令和2・3年の成人式典実行委員会、富士見高等学校生徒会、図書館職員、市職員で構成される。

知らず知らずのうちに 私たちを支えてきてくれた「地域」

かされました。そして、私と同様、それが当たり前すぎて気付いていない方も多いのではないかと思います。

例えば、成人の日に振袖で近所を歩いていたら、多くの通りがかりの人が祝福の言葉をかけてくれたんです。市外の友人の話ではあまりそのようなことはないようで、実はすごいことなんだと思います。地域全体のあたたかさはこのまちが誇れる魅力の1つだと思います。

松岡 私の住む水谷東地域では防災訓練が多く開催され、高齢者の方から小学生まで幅広く参加します。町会の方々が地域のために訓練を企画し、一丸となって私たちを守ってくれようとしていることを強く感じます。

市長 松岡さんと長谷川さんのお住まいの地域は高齢者のみの世帯の住居を町会が把握し、災害時などに住民相互で助け合えるよう備えるなど、団結力が強い地域ですね。

長谷川 ほかに、中学生が小学生と一緒に下校するなど、中学生も地域を守る役目を担っています。とてもあたたかいです。



高塚 このまちがあたたかいと思える経験はほかにもあって、私は小学3年生の3学期に富士見市に転入してきたのですが、雪の降る初登校日、担任の先生が突然「外で雪合戦しよう」と呼びかけてくれました。初めてクラスメイトと接したのが雪合戦になり、それですぐにクラスメイトと仲良くなれました。早くみんなの輪に溶け込めるように考えてくれたんだと今になって思います。

福田 これまで生まれ育った富士見市で当たり前前に生活してきましたが、検討会への参加はこれまで気にならなかったこのまちの魅力について改めて考える良い機会になりました。有名な観光スポットやご当地グルメはないかもしれませんが、コロナ禍で人と人とのつながりが薄れている現在、富士見市ではコ



「誰もが生きることそのものを 楽しいと思える地域をつくりたい」

■高塚 優妃
令和3年富士見市成人式典実行委員



ロナ禍前と変わらない感覚で、当たり前前の生活を当たり前前に過ごしている。これは、実はすごいことなのではないかと検討会で議論していく中で想いを新たにしました。地域の方々がつくり、守ってきた「当たり前」を今度は私たちが引き継ぎ、より良くしていくときなのだと思います。

市長 「若者は地域や政治参加に興味がない」という風潮があります。しかし、皆さんと話していると決してそんなことはない、地域のつながりの大切さやまちの将来のことを想う熱い気持ちがあることに驚かされ、社会の一員である自覚をしっかりと持ちます。これからのまちづくりは、そうした若者の声を拾い上げて市政に活かしていくことが大切です。これからも幅広い世代の方々がまちづくりに参加できる機会をつくっていきます。

市長 先ほど福田さんから「人と人とのつながり」という言葉がありました。このコロナ禍で人と人とのつながりについて感じたことはありますか。

福田 令和3年の成人式を通常通り開催することができなかったのは大きかったですね。私と高塚さんも実行委員を務めたこの成人式は、恩師の先生方との調整やビデオレターの作成など、準備してきたものを会場でお披露目できず、悔しい思いをしました。

また、私はこれまで地域で生活する中で、知らず知らずのうちに多くの方々に支えられてきたと思っています。成人式は今まで自分たちを育ててくれた地域の方々に感謝を伝える機会だと考えていましたが、その機会がなくなり、感謝の気持ちをきちんと伝えられなかったことが一番残念です。コロナ禍で人と人とのつながりが失われていると言われる中で、改めてそのこ

【令和3年富士見市成人式】

令和3年1月11日に開催。新型コロナウイルス感染症の影響で、例年キラリ☆ふじみメインホールで行われている式典の代わりに、市長や恩師からのあいさつは動画で配信し、キラリ☆ふじみの屋外などに記念写真撮影スポットを設置した。



「地域の方々が守ってきた日常を 私たちが引き継ぐとき」

■福田 健浩
令和3年富士見市成人式典副実行委員長



人と人とのつながりを紡ぎ、 残していく

市長 皆さんは将来のまちや自分の姿をどのように思い描いていますか。

長谷川 私は小学生の時に東京から引っ越してきたのですが、その時に空気がおいしくて、朝からとても気持ちよかったです。朝を覚えています。富士見市のように都心に近いながらも緑が多く残っていることはとても貴重なことだと思いますので、これからも変わらずにあってほしいですね。

私には、食品の商品開発に携わり、変わり種の味を見つけて広めたいという夢があります。食べた方が驚くような食品をつくって、それまでの常識を超えていきたいと思っています。私たち若い世代は、コロナ禍で本来つくられるはずの思い出がつかれなかった新しいロストジェネレーションだと言われていますが、私はネガティブには考えていません。コロナ禍だからこそ経験できたこともあります。富

士見市では、ネガティブなイメージに負けず、子どもたちが自分のやりたいことに挑戦できる「夢を叶えられるまち」であってほしいです。

松岡 私はこの検討会でさまざまな立場の人と触れ合う楽しさを覚えられました。まちの中にもいろいろな人とつながりをつくれる場があるといいですね。

高塚 私は大学の教育学科で障がいのある方の生きづらさについて学んでいます。例えば、就職しても職場にうまく馴染めず

疎外感を持ってしまったり、特別支援学校ではなく普通の学級に通い、勉強についていけなくなるなど、当事者に適した環境にめぐり合えず、苦しんでいる場合があるようです。また、障がいがないでも生きづらさを感じている方はかなり多いと言われています。私は、誰もがつながりを持ち、生きることそのも



このまちの未来に 夢をのせて



「若い世代が協力して地域全体を
助け合えるまちにしたい」

■松岡 千樺
県立富士見高等学校生徒会事務局長



人を迎える年に仲間と集まれたのはとても大きかったです。高校卒業後は生活の中心が市外に変わり、同級生との関わりは減ってしまいました。成人式は、同級生と地域で再会できる大切な場。私の周りでは、成人式での再会後、地元の友人と会うようになったケースがとても多いです。

市長 成人式実施の是非については、多くの議論を重ねました。女性はこの日に合わせて着付けの予約をしていたり、離れ

ていた友人との再会の場にもありませんから、何かできることはないかと考え、あのような形となりました。

式典の変更は大変残念でしたが、成人式当日、図らずも人とのつながりの大切さについて考えた方も多いのではないのでしょうか。

私は、これまで皆さんが築き上げてきた友人や地域とのつながりを失ってほしくはありません。市制施行50周年という絶好の機会に、市民の方も市外の方も一緒に覚えて記念事業に関わり、参加し、楽しむことで、人と人とのつながりをつむぎ直し、いつまでも残していきたいと考えています。それがこの市制施行50周年記念事業の大きな目的です。

昨年、象徴的な記念事業の一つである富士見ファンファーレの楽曲が決まりました。50年後の市制施行100周年を見届けるであろう若い世代の皆さんには、100周年記念の時にはこの富士見ファンファーレを聞いて、このまちの絆について想いを馳せてほしいと願っています。

【富士見ファンファーレ】
市制施行50周年を祝う富士見市オリジナルのファンファーレ。12ページに関連記事。



とを感じました。

高塚 大学の友人などの話では、成人の日に集まることすらできなかったり、翌年に延期になった自治体もあったようです。私としては21歳になる時に成人式と言われても違和感があるって、地域の成人みんなが集まる式典はできなくても、フォトスポットが設置されたことで成

人を迎える年に仲間と集まれたのはとても大きかったです。高校卒業後は生活の中心が市外に変わり、同級生との関わりは減ってしまいました。成人式は、同級生と地域で再会できる大切な場。私の周りでは、成人式での再会後、地元の友人と会うようになったケースがとても多いです。

ていた友人との再会の場にもありませんから、何かできることはないかと考え、あのような形となりました。

式典の変更は大変残念でしたが、成人式当日、図らずも人とのつながりの大切さについて考えた方も多いのではないのでしょうか。

私は、これまで皆さんが築き上げてきた友人や地域とのつながりを失ってほしくありません。市制施行50周年という絶好の機会に、市民の方も市外の方も一緒に覚えて記念事業に関わり、参加し、楽しむことで、人と人とのつながりをつむぎ直し、いつまでも残していきたいと考えています。それがこの市制施行50周年記念事業の大きな目的です。

【富士見ファンファーレ】
市制施行50周年を祝う富士見市オリジナルのファンファーレ。12ページに関連記事。

「想い」を未来へとつないでいくために

私たちには「帰ってこれる場所」がある

のを楽しいと思えるまちになってほしいです。将来、私もそのようなまちづくりに携われるよう、大学卒業後は公務員を目指しています。

なのだと思います。私は大学で社会思想を学んでいます。現在、地域のつながりやコミュニティという概念が崩れかけてきていることが問題になっていきます。地域のつながりに支えられてきた私たちは、今後、引き継がれてきたものを受け継ぎ、より良いものにしてまたさらに次へつないでいくという、社会の構成員としての自らの役割をしっかりと果たしていかなければなりません。私たち

が検討している記念事業がその一助になればうれしいです。**長谷川** 検討会で考えたこと、学んだこと、議論したことは、社会生活だけでなく、地域づくりの場にも活かすことができそうです。

松岡 私も、自分を育ててくれた地域の方々に恩返しをしたいです。防災訓練をはじめ、地域の方々には本当にお世話になっています。中学生も高校生も社会人も、若い世代が協力して地域全体で助け合えるまちにしていきたいです。私は今後、就職で地元を離れてしまうかもしれない。それでも遠くから地域に貢献できたらと考えています。

高塚 私たち若い世代は転出する方も多いと思いますが、たとえ転出したとしても心のどこかで富士見市のことを想い、いずれは帰ってきたいですね。私たちに帰ってこれる場所があるんですから。



「皆さんがこれまで築きあげてきた友人や地域とのつながりを持ち続けてほしい」

■星野 光弘
富士見市長

福田 このまちから夢を持って羽ばたいていく人、そしてこのまちで生きていく人、みんながつながりをもってより良い「ふるさと」をつくらせていきたいです。

市長 市長の立場としては、本当は若い皆さんにずっとこのまちにいてほしい、地域を活気づけてもらいたいというのが本音です。しかし、私は、たとえ離れることになったとしても、若い皆さんには無限の可能性を信じて夢を追いかけてほしいと考えています。このまちで育った私たちのつながりは断ち切れません。ここにいる皆さんだけでなく、すべての若者が未来を切り拓けるようエールを送ります。

そして、今日、この新春対談を通じて若い皆さんから受け取った「想い」を未来へとつないでいけるよう市政に反映させていきます。市制施行50周年記念事業を成功させるため、皆さんには引き続きご協力をお願いします。また、本市をいつまでも応援してください。本日は本当にありがとうございました。

新春対談 終わり

【市制施行50周年記念事業実施内容検討会で検討されている事業案】

スマートフォンアプリを利用したデジタルスタンプラリー。謎解きの要素を盛り込み、市内を周遊し、楽しみながら市の魅力を再発見できるものとなるよう検討が進められている。